

滋賀の「美」の魅力についてのアンケート結果

調査時期 : 平成23年5月

対象者 : 県政モニター354人

回答数 : 303人 (回収率85.6%)

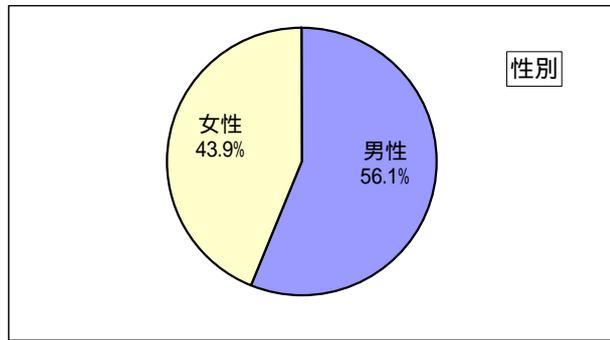
担当課 : 「美の滋賀」発信推進室

調査目的 : 本県には、「県立近代美術館の資産である郷土ゆかりの作家作品や現代美術」、「地域社会の中で守られてきた仏教美術」、「滋賀の人と地域が生み出したアール・ブリュット」等、世界に誇りうる美の魅力が数多くあります。これら3つの「美」を柱とし、「美の滋賀」として県内外に向けて発信することで滋賀の魅力をいっそう高めるとともに、「美」を通じて県民の皆さんの住み心地を向上させることを目指しています。

そこで、これらの「美」の魅力を県民の皆さんはどの程度ご存知なのか等について把握するため、アンケートを実施しました。

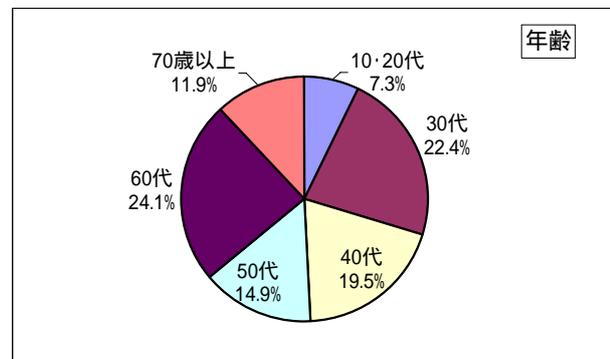
問1 あなたの性別を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
男性	170	56.1%
女性	133	43.9%
合計	303	



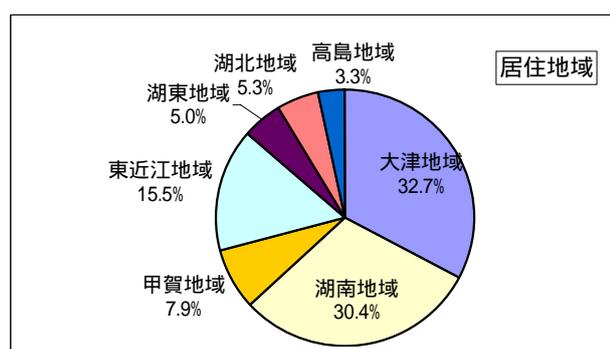
問2 あなたの年齢を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
10・20代	22	7.3%
30代	68	22.4%
40代	59	19.5%
50代	45	14.9%
60代	73	24.1%
70歳以上	36	11.9%
合計	303	



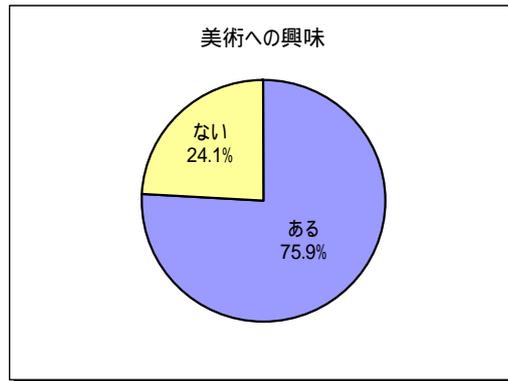
問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	99	32.7%
湖南地域	92	30.4%
甲賀地域	24	7.9%
東近江地域	47	15.5%
湖東地域	15	5.0%
湖北地域	16	5.3%
高島地域	10	3.3%
合計	303	



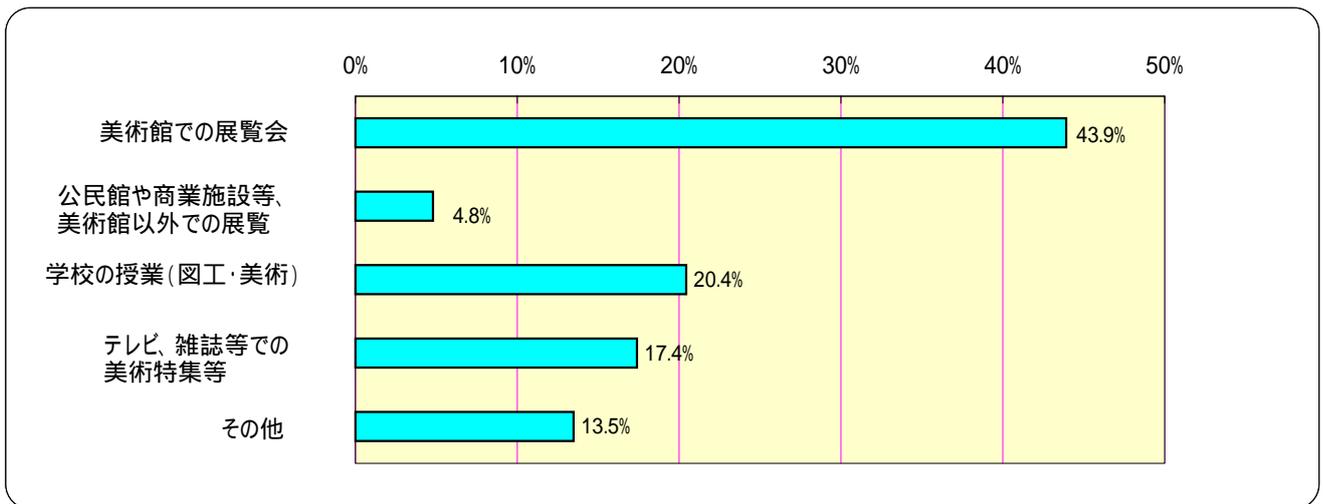
問4 美術に興味はありますか。(は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
ある	230	75.9%
ない	73	24.1%
合計	303	



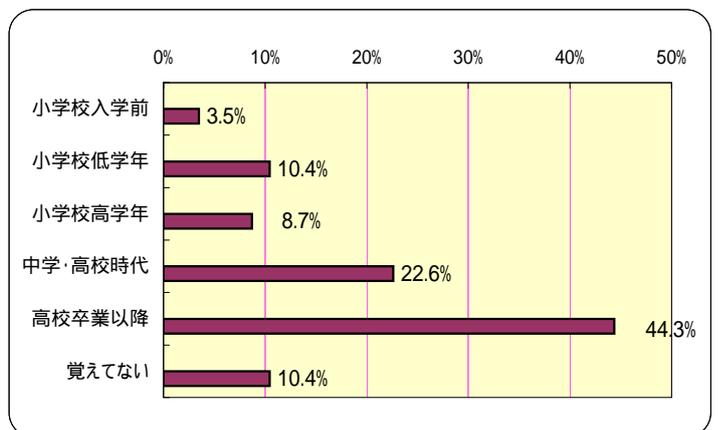
問5 問4で「ある」とお答えされた方にお聞きます。興味を持つきっかけとなったのは、何だと思いますか。(は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
美術館での展覧会	101	43.9%
公民館や商業施設等、美術館以外での展覧会等	11	4.8%
学校の授業(図工・美術)	47	20.4%
テレビ、雑誌等での美術特集等	40	17.4%
その他	31	13.5%
合計	230	



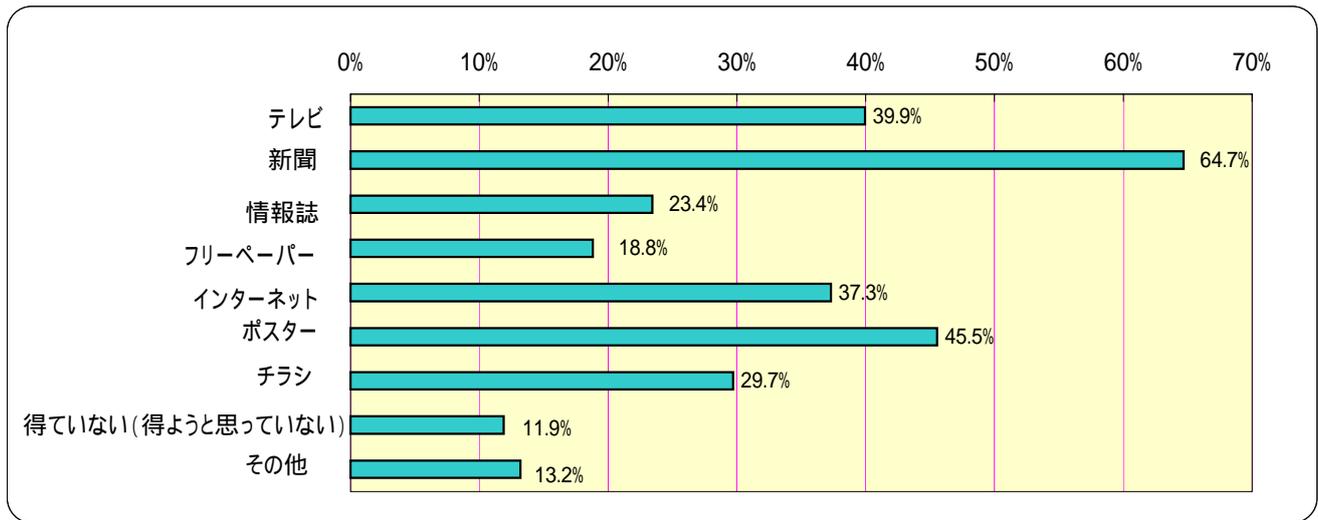
問6 問5をお答えされた方にお聞きます。それはいつ頃でしたか。(は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
小学校入学前	8	3.5%
小学校低学年	24	10.4%
小学校高学年	20	8.7%
中学・高校時代	52	22.6%
高校卒業以降	102	44.3%
覚えてない	24	10.4%
合計	230	



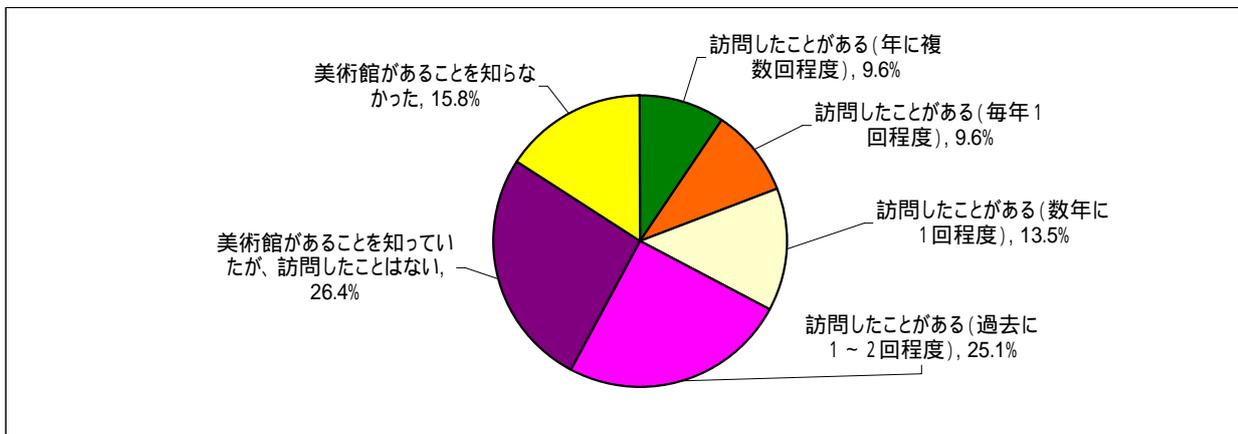
問7 普段、展覧会等の美術情報をどこから得ていますか。(はいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
テレビ	121	39.9%
新聞	196	64.7%
情報誌	71	23.4%
フリーペーパー	57	18.8%
インターネット	113	37.3%
ポスター	138	45.5%
チラシ	90	29.7%
得ていない(得ようと思っていない)	36	11.9%
その他	40	13.2%
回答者数	303	



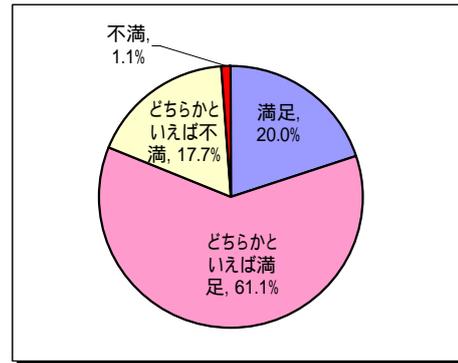
問8 県立近代美術館を利用した経験はありますか。(はい1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
訪問したことがある(年に複数回程度)	29	9.6%
訪問したことがある(毎年1回程度)	29	9.6%
訪問したことがある(数年に1回程度)	41	13.5%
訪問したことがある(過去に1~2回程度)	76	25.1%
美術館があることを知っていたが、訪問したことはない	80	26.4%
美術館があることを知らなかった	48	15.8%
合計	303	



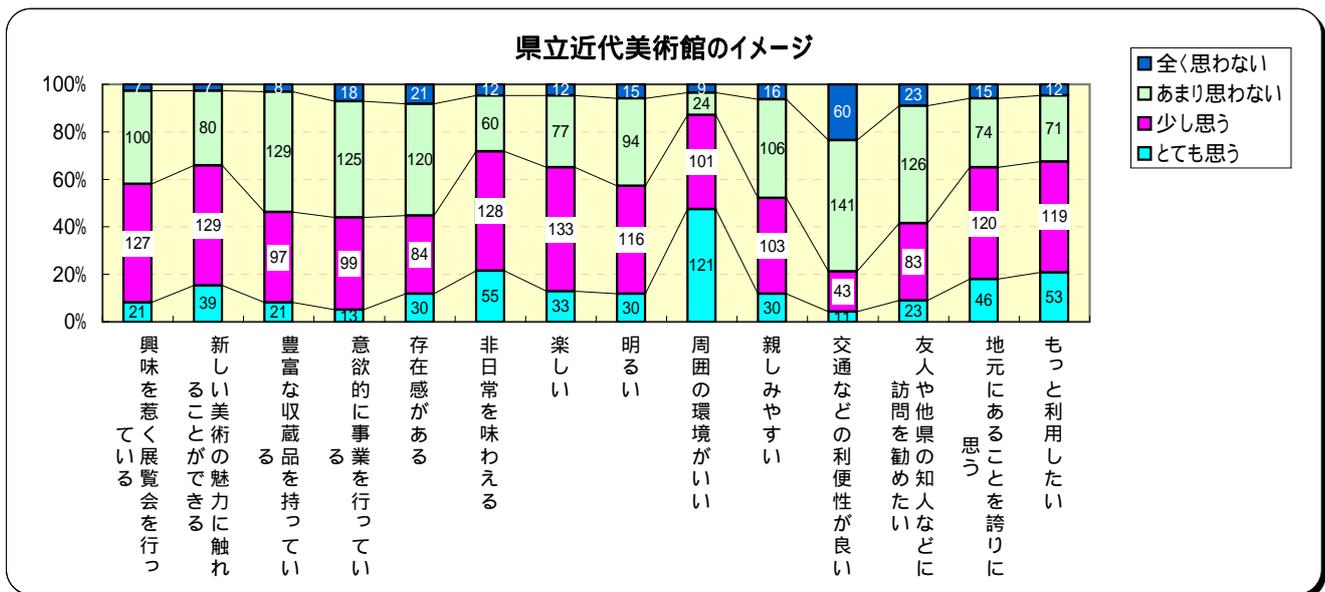
問9 問8で「訪問したことがある」と答えられた方にお聞きます。
近代美術館を利用しての感想はいかがですか。(は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
満足	35	20.0%
どちらかといえば満足	107	61.1%
どちらかといえば不満	31	17.7%
不満	2	1.1%
合計	175	



問10 問8で「美術館があることを知らなかった」と答えられた方以外にお聞きます。
県立近代美術館に対し、あなたが思うイメージをそれぞれの項目ごとに4段階の数字でお答えください。

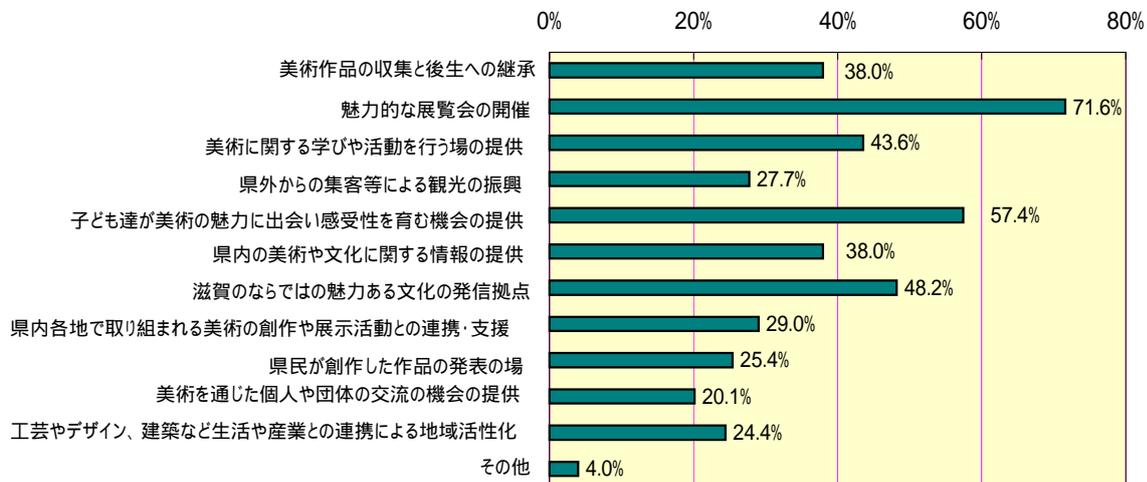
項目	とても思う	割合(%)	少し思う	割合(%)	あまり思わない	割合(%)	全く思わない	割合(%)
興味を惹く展覧会を行っている	21	8.2%	127	49.8%	100	39.2%	7	2.7%
新しい美術の魅力に触れることができる	39	15.3%	129	50.6%	80	31.4%	7	2.7%
豊富な収蔵品を持っている	21	8.2%	97	38.0%	129	50.6%	8	3.1%
意欲的に事業を行っている	13	5.1%	99	38.8%	125	49.0%	18	7.1%
存在感がある	30	11.8%	84	32.9%	120	47.1%	21	8.2%
非日常を味わえる	55	21.6%	128	50.2%	60	23.5%	12	4.7%
楽しい	33	12.9%	133	52.2%	77	30.2%	12	4.7%
明るい	30	11.8%	116	45.5%	94	36.9%	15	5.9%
周囲の環境がいい	121	47.5%	101	39.6%	24	9.4%	9	3.5%
親しみやすい	30	11.8%	103	40.4%	106	41.6%	16	6.3%
交通などの利便性が良い	11	4.3%	43	16.9%	141	55.3%	60	23.5%
友人や他県の知人などに訪問を勧めたい	23	9.0%	83	32.5%	126	49.4%	23	9.0%
地元にあることを誇りに思う	46	18.0%	120	47.1%	74	29.0%	15	5.9%
もっと利用したい	53	20.8%	119	46.7%	71	27.8%	12	4.7%
回答者数	255							



問11 今後近代美術館に期待する役割(はいくつでも)

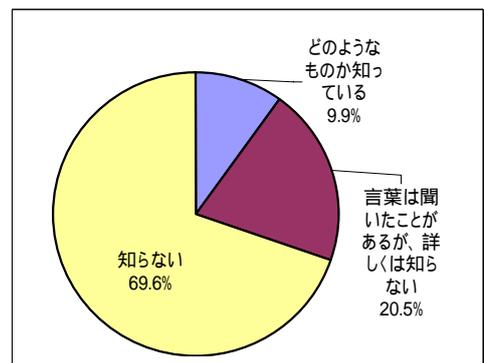
項目	人数(人)	割合(%)
美術作品の収集と後生への継承	115	38.0%
魅力的な展覧会の開催	217	71.6%
美術に関する学びや活動を行う場の提供	132	43.6%
県外からの集客等による観光の振興	84	27.7%
子ども達が美術の魅力に会い感受性を育む機会の提供	174	57.4%
県内の美術や文化に関する情報の提供	115	38.0%
滋賀ならではの魅力ある文化の発信拠点	146	48.2%
県内各地で取り組まれる美術の創作や展示活動との連携・支援	88	29.0%
県民が創作した作品の発表の場	77	25.4%
美術を通じた個人や団体の交流の機会の提供	61	20.1%
工芸やデザイン、建築など生活や産業との連携による地域活性化	74	24.4%
その他	12	4.0%
回答者数	303	

今後近代美術館に期待する役割



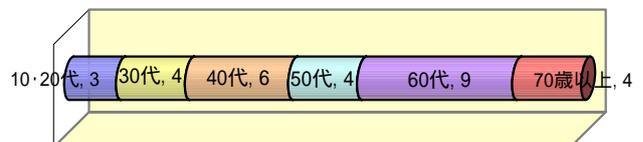
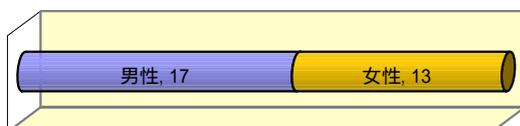
問12 アール・ブリュットを知っていますか。(は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
どのようなものか知っている	30	9.9%
言葉は聞いたことがあるが、詳しくは知らない	62	20.5%
知らない	211	69.6%
合計	303	



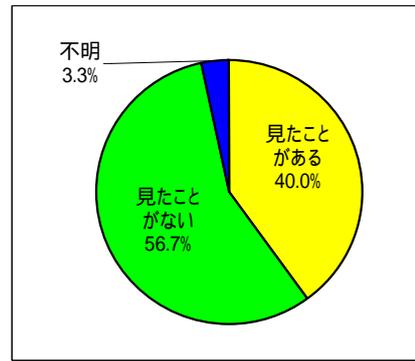
どのようなものか知っている人の属性

性別	人数(人)	年齢	人数(人)
男性	17	10・20代	3
女性	13	30代	4
合計	30	40代	6
		50代	4
		60代	9
		70歳以上	4
		合計	30



問13 - 「どのようなものか知っている」を選択された方にお尋ねします。アール・ブリュット作品(現物)をご覧になったことがありますか。(は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
見たことがある	12	40.0%
見たことがない	17	56.7%
不明	1	3.3%
合計	30	



問13 - ('1. 見たことがある'を選択された方)どこでご覧になりましたか。

- ・近江八幡市内(NO-MA)
- ・プリンスホテルでの展示
- ・県立近代美術館企画展 等

問14 県では、「県立近代美術館の郷土ゆかりの作家作品や現代美術」、「仏教美術」、「アール・ブリュット」を3つの柱とし、「美の滋賀」として発信しようとしています。あなたが最初に「美の滋賀」と聞いた時、どのようなイメージを思い浮かべましたか。自由にお書きください。

< 琵琶湖を中心とする自然美、風景美 >

- ・ 里山や湖の風景
- ・ 琵琶湖の自然や風景の美しさ
- ・ 田園風景と琵琶湖、四季の織り成す自然そのもの。
- ・ 滋賀県の自然の多い美しい風景を描いた絵を思い浮かべました。
- ・ 最初に思い浮かぶのは、「近江八景」に代表される自然景観の美。

< 仏教美術や文化財 >

- ・ 神社・寺院等の古い建造物
- ・ 京都に近いせいもある、古都のイメージが滋賀にはある。
- ・ 唐橋を背景とした歴史と、彦根城が滋賀代表の歴史。史実に基づいた絵画、宗教芸術。
- ・ 仏教美術：寺院や神社等の建造物、仏像や神像などの彫刻、曼荼羅、高僧の絵画、等々の伝世品。

< その他 >

- ・ 小倉遊亀さん。全作品を常設して欲しい。
- ・ イメージとしては何か古いと言う感じがする。
- ・ どのようなものか思い浮かばなかった。

問15 「美の滋賀」として発信することに対してあなたはどのようにお考えですか。自由にお書きください。

- ・ 「美の滋賀」というイメージは、「住みやすい」「住みたい」につながると思うので、良いと思う。
- ・ 滋賀県として、「美」を大事にしていく事は賛成。「美」を共感できる人をより多く持った県として、「美」が普段の生活にとけこんだ県にすることによって、滋賀県がより魅力的になると思う。
- ・ 「美の滋賀」として発信することは、とても素敵なことだと思う。美術品をみて、刺激を受けたり、想像力豊かになったりすることは、とても良いことだ。
- ・ 滋賀の「美」については、県民自身が気づいていないという側面もあるので、「美の滋賀」の発信は大いに意義があり、その効果にも大いに期待している。
- ・ 今年は日本に災害がおき一人一人が改めて自分の国について深く学びなおしたい、また日本の美しい所を見つめなおしたいという機運が高まっているように感じる。美術というものを通して、改めて滋賀というものの再発見ができるような企画展等があることを期待している。
- ・ もっと多くの滋賀の人、他県の人に滋賀の美術をたくさん発信していくべきだと思う。
- ・ 県民自身もっと知る必要があり、あらゆる機会、手段を活用して発信することが大切と思う。

- ・滋賀県には豊富な歴史的遺産を持ちながら、それが生かされていないような状況にあり、もったいないと思っていた。
- ・滋賀県には数多くの国宝等があるが、全国的にはあまり知られていない。もっと、PRすべき。
- ・これまでから近代美術館をPRしてきたと思うが、まだまだPRが不十分だったと思う。その意味で、「美の滋賀」を発信されることには、大きな意味があり、大きな期待をかけている。是非とも見やすく魅力的な内容の発信を期待している。
- ・発信よりも、まず、子供の頃から美しいものといわれるもの（歴史的建造物や絵画等）に触れ合ったりできる機会をつくってほしい。
- ・「美の滋賀」を発信することにどのような意義があるのか分からない。一体どれぐらいの人が関心を持っているのか疑問。
- ・美術といったものに関心がないからかもしれないが、あまりしっくりとはこない。

問16 その他、滋賀の美の魅力についてご意見がありましたらお聞かせください。

- ・滋賀の「美」は決して派手ではないが、後で良さが伝わってくる、いわば漢方薬のようにじっくり効いてくる文化財・美術品が多いと思う。「心の栄養」補給に欠かせないものと感じる。
- ・滋賀全域の「点在」している「美」についての情報基地として、県立美術館はもっと機能すべき。
- ・美術館は美術がわからない人でも、足を運びたくなることが大切だと思う。なんとなく居心地がいいこと、わざわざ訪れるまではいなくても、近隣に行くついでに寄りたくなることが条件だと考える。
- ・文化的事業に力を入れている地域は心に余裕がある証拠のような気がする。全国的に有名な美術館があることは、地元で誇りを持つことにつながると思う。
- ・美しいものを見たいとの欲求に答えられる素材はたくさんあるので「美」の発信と併せて、文化財施設間の相互的な連携、回遊に向けたルートや施設内容のわかりやすい発信も必要だと思う。
- ・美しさを文化的な側面だけでなく、地域活性化の観光的な側面も加えた、文化財各施設、市町、県の連携も必要。総合的な案内、モデルルートなどをそれぞれが同じ機軸で発信すれば、より視認される割合も増えるので、滋賀の美しさを体験できる人が県内外から増えるのではないかと思う。
- ・滋賀の観光事業に滋賀の「美」を全面に出すべきだと思う。「自然の美と歴史の美と創作美術の美」をコラボレーションする感性が環境の先進性に加えて、新しい滋賀を発信することになると思う。
- ・美の魅力は、美術だけに限らず、風景、人情を含めた心の内面からも発信されるべきである。
- ・特定の美術作品を収集展示したからといって、それをもって滋賀の「美」とは言えない。滋賀の「美」とは何か。自然界にびわ湖が出来てから今までの、人の生業の表現と思う。
- ・第2次産業が多いことも滋賀の特徴であり、商人の町というイメージもあるので、工業デザインとか、商品デザインというカテゴリーで特徴づけると面白いと思う。
- ・自然の美、琵琶湖の美ももっとアピールできるのではないかと思う
- ・美の3本柱として、仏教美術、アール・ブリュット、郷土ゆかりの作品を挙げているが、どこか教科書的でおもしろみに欠ける。日本あるいは滋賀ならではの「美」を世界的に発信するにはインパクトにかけると感じる。